

一人ひとりに
寄り添う政治を。

そ
世
だ
田
ち
谷

世田谷区議会議員

無所属

世田谷から未来を変える。

特定の団体や企業のためではなく、しがらみのない立場で、本当に困っている人の声を受け止められる“一人ひとりに寄り添う政治”の実現を目指して「つるみけんご」は、活動を続けます。

つるみけんご 鶴見健悟プロフィール

- 1986年(昭和61年)10月12日生まれ 37才
- 世田谷区立駒沢保育園、駒沢小学校、駒沢中学校、東京農業大学第一高等学校、東京農業大学応用生物科学部バイオサイエンス学科
- JA東京中央会 元職員
- 衆議院議員 長妻昭 元秘書
- 公務員試験専門 喜治塾 元講師
- 2019年世田谷区議会議員に初当選(得票数4,491票)
- 現在 2期目
- 区民生活常任委員会
DX・地域行政・公共施設整備等推進特別委員会



つるみけんごは
“認知症サポーター”です！

つるみけんご
通信
Vol.25



こんにちは。
この度はつるみけんご通信Vol.25をお手に取って頂き、誠にありがとうございます。
本通信では、世田谷区議会議員令和5年第4回定例会における一般質問の内容をまとめました。お読み頂けましたら幸いです。

第四回定例会における一般質問

本通信では内容を一部抜粋し、掲載しております。質問の様子はこちらから動画でご覧いただけます。

一般質問動画



質問 給食費完全無償化と引き換えに他の教育予算が削られることはないのでしょうか？

～子どもが健やかに育ち、好奇心を育む世田谷へ～

質問の要旨 世界的にみて、日本は教育に対するGDP比の公的支出の割合が低く、義務教育における保護者負担の軽減は重要課題です。

世田谷区は、令和5年度に引き続き、6年度以降も給食費完全無償化を実施することを区の方針として示しました。区資料によると、これに係る経費は総額で約30億円です。

教育予算は未来への投資であり、未来を担う子ども・若者への投資です。給食費を無償にする代わりに他の教育予算が削られてしまつては本末転倒です。

区は、令和6年度の予算編成に向けて、この約30億円の経費費を、これまでの教育予算に**上乗せ**するのか、それとも従来の教育予算を**削減**して捻出することを想定しているのか、区財政部門の考えを問いました。



教育長の答弁の要旨 給食費無償化については、経済的支援の側面や義務教育無償化を進める観点からの意義を認め、国が実施するまでの間、区をあげて取り組んでいくことから新たに必要となる財源は全庁を上げて生み出す必要がある。財源については、コロナ対策関連経費の見直しやデジタル技術の活用を含めた実施手法の転換、新たな仕組みの構築などによる経費の抑制を検討している。これらにより生み出された一般財源を優先的に配分したい。



つるみけんごコメント

ややわかりにくい答弁ですが、区財務部門が他の教育予算を削るという発想でないことは明らかとなりました。来年度予算については、来年の2～3月に区議会の予算特別委員会で議論する予定です。この際に改めて、子ども達の学びの予算が削られていないか教育予算のチェックをするとともに、子どもの多様な学びの機会の確保に努めて参ります。

引き続き、**子どもが健やかに育ち、好奇心を育む世田谷の教育の実現に全力を尽くします。**

政治を志す若者・学生の皆様へ

私が初めて政治に携わったのは社会人2年目、サラリーマンをしながら休日にボランティアで政治家の方の活動をお手伝いさせて頂いた時でした。その後、転職し、衆議院議員ながつま昭さんの秘書として、政治の現場で様々な事を学ばせて頂きました。

私は現在、区議会議員2期目、37歳になりましたが、ぜひとも若い

世代の方々にも政治を肌で感じてもらいたい、これからの政治のあるべき姿をも描いていきたい、と考えております。

政治にご関心のある方のご連絡をお待ちしています。ともに“政治のあるべき姿”・“地域のあるべき姿”を考えていきましょう！

TEL.03-6322-0575

② kengo@k-tsurumi.net

③ Instagram



質問 区が描くまちづくりセンター像は区民生活を包み込むものになっているのでしょうか？

～住み慣れた地域で区民の課題を解決できる地区の「ミニ区役所」を～

質問の要旨

「地域行政制度」は、平成3年に全国自治体で初めて、世田谷区が創り上げた独自の行政構造で、区・区民の財産というべきものです。地域行政の原点は、区民生活における現場の課題を現場で解決するための行政構造改革です。

昨年世田谷区で施行された地域行政推進条例により、区内28か所のまちづくりセンターは「区民生活を『包括的に』支援する地区の行政拠点」と位置付けられました。区には、条例に基づき、まちづくりセンターを「区民生活をしっかりと包み込む地区の拠点」へと生まれ変わらせる責務があります。

一方で、令和6～9年度の計画として区が現在作成している「地域行政推進計画」の内容は、条例で掲げた「まちづくりセンターが区民生活を包括的に支援する地区の行政拠点」を実現するに足るものになっているのか疑問を感じます。このことについて、区としての認識を問いました。

区の方針

まちづくりセンターで展開されている「福祉の相談窓口」においては、区民生活全般にかかると多様な相談に応じ、その場で解決できない内容については担当部署への繋ぎを行うなど、区民生活を包括的に支援する地区の行政拠点としての役割を担っている。



つるみけんごコメント

この方針は全く理解できません。区民生活は、福祉のみならず、道路の不具合やカラス被害、ゴミ出し等の近隣トラブルに始まり、子どもや親、家族に関わる不安・心配事、その他にも健康・スポーツ、文化的活動、地域のコミュニティ活動など多岐にわたります。区の言われる「福祉の相談窓口」は区民生活のほんの一部に過ぎず、これのみをもって「包括的な支援を担っている」というのは、区民生活への理解が乏しいと言わざるを得ません。

区は自分たちのできることから施策を組み立てるのではなく、私達区民の生活から地区に必要な行政サービスを構築すべきです。

区民生活から見た「包括的な支援」を実現するためには、区内28か所のまちづくりセンターが、私達区民にとっての「ミニ区役所」に生まれ変わることが必要です。

そのひとつの具体的な形として、身近な場所における「ワンストップ・たらいまわしゼロの窓口」の実現を目指して参ります。



地域行政制度

区民

区



地域行政の目的

総合的な行政サービス

地域の実態に即したまちづくり

住民参加の促進

三層構造の行政拠点

地区 拠点:まちづくりセンター(28か所)
人口:約2~6万人(1地区)

↓連携支援

地域 拠点:総合支所(5か所)
人口:約12~25万人(1地域)

↓連携支援

全区 拠点:本庁(1か所)
人口:約92万人

つるみけんごの日々の活動



地域の防災訓練に参加しました。消火器訓練や在宅避難の備えに関する講習、地元の駒澤大学の学生

さんが考案された防災競技の体験もさせて頂きました。日頃の備えが、いざという時に命を守ります。議員としても地域防災力の向上に努めてまいります。



地域の古着回収に参加しました。年に二回の古着回収は毎回多くの方が不

要になった衣類をお持ちくださいます。回収した古着は、衣類として再利用されたり、裁断してウエス(工業用ぞうきん)に利用されたり、繊維にほくしてカーベットの生地などに加工されます。



世田谷区社会福祉協議会の「社会福祉推進大会」に参加しました。

区内大学と協業に関する報告や学生さんによる研究発表が行わ

れました。研究発表では、規格野菜を用いた食の支援、ロスフラワーを用いた障がいを持つ子どもの社会進出支援について、学生さん独自の視点でお話がありました。若い世代の方々が柔軟な発想で社会課題に果敢にチャレンジできる社会を構築していきたいと改めて感じました。

つるみけんご事務所

〒154-0003 東京都世田谷区野沢4-14-4

TEL.03-6322-0575

✉ kengo@k-tsurumi.net 🌐 http://k-tsurumi.net

つるみけんご
日々の活動
発信中

f Facebook

Instagram

X

YouTube

